

石川県の企業との連携による経営学の知識と実践の融合を目指した講義の実践

団体名●中尾 公一ゼミナール／代表者名●中尾 公一(経済学部 経営学科・准教授)

はじめに

この活動は、本学経済学部経営学科の2年生の基礎専門ゼミナールを対象として行うものである。2年生は1年生で経営学の入門講義を終えたばかりであるが、座学で学ぶ知識の定着は心許ない。

そこで2022年度大学コンソーシアム石川「大学生の地元定着推進支援事業」の枠組で、石川県中小企業家同友会地域政策委員会の株式会社のとじまの不動産屋(代表:河尻 成実氏、七尾市能登島)と、農事組合法人 北辰農産(代表理事:舘 喜洋氏、白山市)のご協力を得て、ゼミ生達が大学で学んだ理論的内容とフィールドワークに基づき、各企業が提示した課題の解決策を発表してもらうこととした。

活動内容

当年度の前期の講義では、中川功一・佐々木将人・服部泰宏(2021)『考える経営学』有斐閣ストゥディアを用いて、ゼミ生全員が担当章を輪読し、経営学の基礎知識を復習しつつ、グループワークを通し、具体例を用いて理論を考えることを意識してもらった。また前期の後半に石川県中小企業家同友会の地域政策委員会から担当企業のご紹介がなされ、オンラインで担当企業とのゼミ生の顔合わせを行った。

株式会社のとじまの不動産屋からは、①若い世代の視点から能登島の観光活性化、②能登島での不動産取引の注目度を高める方法を農事生産組合北辰農産からは③若い世代の米消費喚起策を検討する「お題」がそれぞれ与えられ、3グループを結成した。

2022年10月22日-23日には、株式会社のとじまの不動産屋の調整のご尽力により、七尾市能登島で1泊2日の宿泊研修を行った。往復の公共交通機関の利用や能登島内での移動を含め、旅行者の立場や不動産取引に関わる立場に置き換えてみて、能登島荘や、漁港での水揚げ作業、そして株式会社のとじまの不動産屋が仲介した物件の視察などを行った。また能登島の訪問の前に河尻代表にはオンラインで学生との質疑応答にご対応頂いた。また同年11月

15日には農事組合法人北辰農産を訪問し、舘代表理事のご案内により同法人が運営する店舗「稲ほ舎」や工場を視察した後、学生達との意見交換を行った。

これらのフィールドワークで学生たちが感じたことについて、経営学の教科書で紹介された分析枠組を用いて、企業向けの提案を準備してもらった。

成果、結果の考察

2023年1月20日、3つの学生グループが教科書の知識と、フィールドワークで五感を使って体験した内容とを関連づけて考えた、法人向けの提案内容の発表会を行った。3つの学生グループは、教科書で紹介された、経営学上の様々な分析手法を用いて、政府統計、企業提供のデータ、また消費者の視点から、各法人が提示した課題の解決策を提示した。発表会に参加した一部企業関係者からは、分析方法の一つの「共感マップ」を用いた顧客が感じる「痛み」について有益だったとの感想を得た。また同年3月7日に、石川県中小企業家同友会地域政策委員会向けの事業報告会でも、2つのグループが同じ発表を行い、テレビ金沢やYahoo ニュースで取り上げられた。

今後の課題、展望

3月7日の報告会では中小企業家同友会から、今後とも本事業を継続したい旨の意見表明がなされた。



水揚げの視察(七尾市能登島)